

文化構想学科

表現文化コース



表現文化コースとは

文学、映画、音楽、写真、美術、演劇などの「芸術」だけではなく、ポピュラー音楽やアニメーション、マンガ、ゲーム、さらに現代の多彩な創作活動、二次創作やオンライン創作、あるいはファッションや広告といった、現代社会の「表現」のあらゆるジャンルを対象とするのが表現文化コースです。本コースでは、「表現」を、「歴史」「社会」「メディア」の三つの軸から教育し研究します。表現が形成されてきた歴史、表現をとりまく社会、表現を可能にするメディアに注意をはらいつつ、文学研究・メディア論・芸術学・物語論・記号学など、さまざまな学問領域を幅広く横断し学びつつ、現代の文化表現の実相に迫ります。自分の関心を学術的な視点からとことん掘り下げたい人を待っています。

増田先生の研究

専門は音楽学とメディア論ですが、特にポピュラー音楽の研究を中心にを行っています。19世紀の西洋クラシック音楽を主な対象として形成されてきた音楽学は、20世紀の大衆社会下に大きく発展したポピュラー音楽を適切に扱うことができません。社会学や人類学、文化研究やメディア論といった知を横断しつつポピュラー音楽を研究する学術動向は、1990年代以降世界的に盛んになっており、その日本における教育研究拠点の一つを担っています。作者性や歌詞論、ナシヨナリズムと音楽といった個別トピックの研究を進めるとともに、現代表現文化を幅広く教育研究する表現文化コースの中で、オンライン文化や二次創作といった音楽以外にも共通する現代文化の構造を巨視的に見据えながら、学生と共に研究を進めています。



教授
ますだ さとし
増田 聡 先生



3年生
きむ そよん
金 昭延 さん

表現文化コースを選んだ理由

受験の時に文学部案内冊子を見て初めて表現文化コースを知りました。幼い頃から音楽や映画、マンガ・アニメとかに幅広く興味があつて、美大ではなくても芸術分野を大学で研究できればという思いから本コースを選ぶようになりました。

表現文化コースの魅力

多岐にわたる芸術作品に触れられる点も魅力ですが、自分が興味を持つ作品分野を深掘りできる点も魅力だと思います！自分の好きな分野の関連書籍を読んで授業に臨んだり、学んだことをその分野への考察に適用できることも魅力的です。

面白いと思った専門科目

「科目名」
表現・表象文化論演習Ⅰ

この授業はやおい／BL（ボーイズラブ）について社会的背景と作品の主題、表現技法の観点からアプローチします。一瞬「大学の授業でBL？」と思われたかもしれませんが、ポピュラー文化としてのやおい／BLを論理的に分析する興味深い授業だったと思います。

卒論テーマ例

- ・SF映画においてAIの身体像はどう表現されるか？—『エクス・マキナ』と『her/世界でひとつの彼女』におけるAIの恋愛の比較—
- ・やおいにおける暴力の変換と関係性の認識
- ・aikoが描く恋愛の特別性—「二人だけの世界」とあたしの感覚の表象について—

表現文化コースにとつての『とびうら』とは？



ドアーズというロックバンドが60年代に活躍しました。その名前は、神秘主義に関心をもつ作家、オルダス・ハクスリーによる、幻覚剤による精神変容を記述した作品『知覚の扉』（1954）に由来します。彼らは幻覚剤を、人間の知覚を拡張し新たな世界を開くものと考え、それを「扉」のメタファーで表しました。ここに、幻覚剤が「新たな世界を開く扉」であるなどと考える人はほとんどいません（そもそも違法です）。「扉」のメタファー自体もその新鮮さを失っている。現代の「新しい世界」は、ドアを自分で開けて飛び込んでいくものではありません。ネットの普及や新型コロナウイルス流行のように、知らぬうちに社会に浮上し、気がつけばもう元の世界に戻れないようなかたちで「新しい世界」に取り残される。

ここにちの「新しい世界」への入り口が「扉」ではないとしたら、どんなメタファーで指し示すことができるのでしょうか。ひとつ考えてみてください。（文・増田先生）